



ベトナムの葬送文化

北陸銀行 国際部
ホーチミン駐在員事務所
所長 山田 太一

1. はじめに

冠婚葬祭に関するマナー・慣習は、国や宗教によって様々です。
今回のレポートでは、ベトナムの葬送文化*についてご紹介いたします。

*死者を弔う習慣のこと

2. ベトナムのお葬式

ベトナムの葬儀は大抵の場合、自宅や葬儀式場で行われます。一般的に、葬儀は亡くなった日から3日から5日にわたって行われますが、都市部は農村部に比べてお葬式の日数が短くなる傾向があります。



【ホーチミン市内の葬儀式場(筆者撮影)】

(1) 服装

ベトナムの喪服は「白色」です。遺族は白色の喪服と白色のハチマキを身につけます。参列者は派手な外見でなければ何色の服を着用しても問題ありません。

(2) 供物、香典

贈り物に関しては日本と同様で、香典や果物、献花（蓮、菊、蘭）を行う習慣があります。一般的な香典の相場は200,000～300,000VND（約1,260～1,890円）、親しい間柄であれば、500,000～1,000,000VND（約3,150～6,300円）とされています（1VND=0.0063円換算）。

(3) 埋葬方法

ハノイ市やホーチミン市など都市部では日本同様「火葬」が定着しつつありますが、ベトナム全土で見ればまだ「土葬」の方が主流と言えます。

土葬の場合は、棺桶ごと埋葬されます。つまり、家族でひとつのお墓ではなく、一人ずつ別々のお墓に入ることになります。

ベトナム北部では、一度死者を埋葬し、2～3年後に掘り起こして骨だけを取り上げ壺に入れてお墓に埋葬し直す慣習が残っている地域もあります。



【ホーチミン市内の墓地(筆者撮影)】

(4) その他のしきたり

妊婦、病人、幼児は葬儀に参列すべきではないと考えられています。葬儀に参列した後に病気になりやすいとの言い伝えがあるためです。

また、鏡は幽霊を招くと信じられていることから、家の中にある鏡を新聞紙などで覆い隠し、見えないようにします。

3. お葬式の雰囲気

ベトナムは南北に長い国なので、各地域でお葬式の雰囲気が大きく異なります。

一般的に北部では、喪に服すことは子供から親への最後の親孝行と認識されており、遺族は故人に対する遺憾の意を昼夜にわたり表して、しめやかに送り出します。

一方、南部では人の「死」は悲しい別れというよりも、新たな人生の始まり、故人の旅立ちを祝う記念日だと考えられているため、遺族は故人を賑やかに送り出します。

4. おわりに

ベトナムの葬送文化についてみてきましたが、いかがでしたでしょうか。日本と似ている点があったり、相違する点があったりしますが、最も大切なのは故人を偲ぶ気持ちであり、この点は万国共通であると思います。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp